

# 市町村の取組編

野田市	キャリア教育実践プロジェクトの取り組み……………	155
富里市	社会に目を向け、自立への基礎を培うキャリア・スタート・ウィーク ～わくわくWorking!～……………	163

# 参考資料編

キャリア・カウンセリングについて……………	171
キャリア教育推進に係る千葉県教育委員会の取組……………	173
千葉県の職場体験、インターンシップ実施状況（中学校・高等学校）……………	175



# 野田市キャリア教育実践プロジェクトの取り組み

野田市教育委員会

## 1 はじめに

野田市は、千葉県北西部に位置し、利根川を境にし東は茨城県、西は江戸川を境として埼玉県に接している。都心から直線にして30km、千葉市から45kmの距離にある。古くから『醸造の町』として知られ、しょうゆ産業の進展と共に町が発展してきた。

平成15年6月には、隣接していた東葛飾郡閩宿町との市町村合併により新野田市が誕生し、市域も広がり豊かな自然と終戦内閣の総理大臣鈴木貫太郎翁や近代将棋の父関根金次郎翁をはじめとする歴史的遺産を継承するに至っている。

合併後の人口は15万5千人を超え、小学校20校、中学校は11校、計31校であり、児童生徒数は、12,000人を数える。



## 2 野田市キャリア教育実践プロジェクト実施の背景

### (1) 野田市教育委員会の施策からのアプローチ

野田市教育委員会では、平成14年度からの、新学習指導要領および学校週5日制の完全実施に伴う、学力低下への不安解消策・有意義な土曜日への対応策として、『野田市教育環境整備事業』をスタートさせ、新たに5つの事業を立ち上げた。

#### 【確かな学力の育成策】

- ① 副教本開発事業（削減された内容も収録した算数・数学，理科（野田市の自然も含む）
- ② 少人数授業等講師派遣事業（全小学校の3・4年生の算数指導の充実：22人を配置）
- ③ 地域人材活用事業（地域の教育力を学校教育に導入）

#### 【有意義な土曜日の過ごし方】

- ① サタデースクール事業（小学生を対象に希望制：毎週土曜日に実施，算数の復習中心）

- ② オープンサタデークラブ事業（小中学生を対象に希望制：第1・3・5土曜日に実施，郷土芸能，伝統文化，柔剣道等）

これらの施策の基本理念は，①結果の平等は求めぬが機会の平等は与えたい②確かな学力・豊かな心の育成③地域の子どもは地域で育てる，としている。

特に，サタデースクール・オープンサタデークラブ事業では，地域の方・保護者・学生・青少年健全育成団体等総勢400人以上の協力を得て事業を展開している。「地域の子どもは地域で育てる」の理念を地で実践し大きな成果を上げてきた。

更に，平成18年度からは野田市教育環境整備事業を発展させる為，文部科学省の新教育システム開発プログラム事業を受託し，4つの中学校区に1名ずつ「地域教育コーディネーター」を配置し，地域の教育資源を積極的に学校教育に結びつけている。現在は，「地域教育コーディネーター」を中心に「人材データベース」の構築や「学校支援本部・地域教育推進本部」の構想をすすめ，学校と地域の協同を目指している。

以上のように，野田市教育環境整備事業のさらなる拡充・発展を進める中，キャリア教育実践プロジェクトの実施は，望ましい勤労観・職業観の育成にとどまらず，地域社会に児童・生徒が積極的に出て行くことにより，地域と共につくる学校の絶好の機会となりうるものと考えている。

## (2)野田市の施策からのアプローチ

野田市では，自分らしい「生き方」を設計し，個々人が最適な職業選択ができるよう導く「キャリア・デザイン」の考え方を広く市民に啓発すると共にまちづくりに生かすため，平成17年6月4日，5日の両日，日本キャリア教育学会と野田市・野田市教育委員会の共催で講演会とシンポジウムを開催した。

また，平成18年度からは，団塊の世代前後の方々が培ってきたノウハウを地域社会に活かしていただくため，「シニア世代地域参加支援事業」を立ち上げ，①退職後の人生を生きがいをもって過ごす支援 ②講座だけでなく，ボランティア等地域活動に参加するきっかけづくり ③スムーズに地域社会に溶け込む支援と対策に取り組んでいる。

キャリア教育実践プロジェクト事業の実施は，野田市の施策とも合致し，町に住む全ての市民が関わり，高めあっていくことができる事業であると捉えている。

---

## 3 野田市キャリア教育実践プロジェクトへの取り組み

---

### (1)テーマ

生きる力を身につけ，様々な課題に柔軟かつたくましく対応できる生徒を育成するために，学校・家庭・地域社会が連携したキャリア教育を推進し，効果的な職場体験等のあり方を明らかにする。

## (2)ねらい

- ① 職場体験を実施することにより、働くことの意義や価値を自らの体験の中で学び、望ましい勤労感や職業観を身につける。
- ② 職場体験等を通して、社会の規律やマナーを学び、豊かな感性や創造性を自ら高め、自分なりの生き方を見つける。
- ③ 推進体制を確立し、学校・家庭・地域社会との連携を図り、各学校の特色を生かした職場体験学習を実施する。
- ④ 「地域の子どもは、地域が育てる」「地域の子どもは、地域に生きる」という考え方にに基づき、職場体験等の活動を通して、子ども自身は地域の関わり方を学び、地域は子どもを育てる役割を再認識し、地域の活性化を図る。

## (3)実施方法

市内全中学校11校を推進校と位置づけ、連続した5日間の職場体験を実施する。実施時期については、各学校の年間教育計画に基づき、市全体として調整して実施する。

### ① 職場体験活動の内容

- ・体験先は、校区を中心に生徒の希望職種に応じて、事業所に依頼する。
- ・人と接する職業、物を作る職業、自然を相手にする職業、事務系の職業、専門的な技術が必要な職業の5部門に分類し、それぞれの職場体験活動を行う。

### ② 教育活動上の取り扱い

- ・年間指導計画のもとに、総合的な学習の時間を中心に、特別活動の時間等も利用して、各学校の実情に応じて編成する。

### ③ 配慮事項

- ・特別に配慮を要する生徒については、個々の実態に応じて職場体験活動への参加形態を工夫する。

### ④ 保険

- ・傷害保険および損害賠償保険には、参加生徒全員について、市が一括して加入する。

## (4)推進体制

当事業は、学校・家庭・地域の三者が一体となって推進体制を築くことが重要である。とりわけ「地域の子どもは地域が育てる」というねらいに視点をあて、かつ、キャリア・デザインの考え方を通して、キャリア教育を推進していきたいと考える。そのためには、地元産業界等を巻き込み、学校・産業界・関係行政機関等による連携・協力が必要となる。（産・官・学の連携）

<組織>

会 長：野田市教育委員会指導課長  
副会長：野田市校長会代表，野田市商工会議所専務理事

**推進協議会（実行委員会）**

- ・野田市教育委員会学校教育部
- ・野田市教育委員会生涯学習部
- ・野田市保健福祉部児童家庭課
- ・野田市民政経済部商工課
- ・松戸公共職業安定所野田出張所
- ・財団法人興風会
- ・野田商工会議所
- ・野田市関宿商工会
- ・J Aちば県北
- ・野田市工業団地連絡協議会
- ・青年会議所理事
- ・市内大手企業
- ・各ライオンズクラブ会長
- ・各ロータリークラブ会長
- ・野田地区私立幼稚園協会会長
- ・市内中学校長代表 2名
- ・市P T A連絡協議会代表
- ・市内各校 2 学年担当者

（平成20年度より「ゆめ・仕事びったり体験」にともない，市内小学校長代表と6学年担当者を加える）

**推進委員会（各学校ごとに設置）**

- ・校 長
- ・教 頭
- ・教務主任
- ・研究主任
- ・2 学年主任
- ・職場体験担当
- ・P T A代表
- ・学校評議委員

**連絡協議会**

- ・市内中学校長代表
- ・市内各校 2 学年担当者
- ・職場訪問員（野田地区雇用対策協議会雇用）

（平成20年度より同組織を小学校にも設置予定）

① 推進協議会の設置および実施状況

- ・教育委員会に事務局を置き，学校関係者および地元産業界等との連携を図り，組織的にキャリア教育実践プロジェクトの推進を図る。
- ・野田商工会議所，野田市関宿商工会，松戸公共職業安定所野田出張所，野田市工業団地連絡協議会，各ライオンズクラブ，各ロータリークラブ，J Aちば県北，市P T A連絡協議会等関係諸団体との連絡・調整を図り，受け入れ事業所の開拓を進める。

**【実施状況：年間2回実施】**

実施要項の検討，各校の実施計画および実施時期の調整，受け入れ事業所の開拓，各校の実施報告（成果と課題），次年度の実施計画 等を協議

② 推進委員会の設置

- ・各中学校区単位で設置し，学校評議員やP T Aと協力して推進を図る。

- ・学校は、校内の指導体制の組織化を図り、実施にあたっては、各校の実態に応じて、生徒の希望や保護者の思いを十分に把握した上で進める。また、生徒の希望を集約した上で、事業所との折衝を行い、職場体験活動の実施の調整を行う。

### ③ 連絡協議会の設置および実施状況

市内各校の取り組みや進捗状況についての情報交換を行い、各校間の調整を図る。実施上の課題解決に向けて、関係機関との情報交換を行い調整を図る。

【実施状況：18年度までは年間5回実施 19年度より事業が定着してきたことで年間2回実施】

実施要項の検討、予算の調整、実施時期の調整、体験場所・人数の調整方法、事業所の開拓状況、実施報告書（成果と課題）、ポスター・シール・リーフレットの作成、次年度の実施に向けて検討

### ④ 関係行政機関、団体、企業等との連携

- ・市役所内の各課および出先機関への職場体験の依頼
- ・野田地区雇用対策協議会との連携
- ・各工業団地連絡会の総会や理事会での趣旨説明
- ・職安主催の企業説明会における各企業への協力依頼および担当学校職員向けの「職業講話」の実施
- ・野田商工会議所や野田市関宿商工会の会報による事業の趣旨を周知

## (5) 職場体験受け入れ事業所の開拓方法

- ① 前年度までの各校の職場体験事業所一覧を開拓の基礎資料とした。
- ② 事務局である教育委員会が市内5つの工業団地、46の技能職組合、15の商店街連絡会など各組織を中心に開拓を進めた。
- ③ 野田地区雇用対策協議会で専属の事業所訪問員2名を雇用し、受け入れ事業所を開拓した。

【主な開拓・訪問先】

- ・各工業団地に所属している事業所
- ・各技能職組合に所属している事業所
- ・各校の職場体験で重複して体験している事業所
- ・市内の大手量販店やスーパー、コンビニ、ファミリーレストランなど
- ・各校が職場体験を実施する事業所で、学校又は生徒本人が開拓した事業所（職場体験実施前又は実施中に訪問）

- ④ 各校でも今までのノウハウを活かして事業所を開拓した。

## (6) 事業啓発のためのポスター・シール・リーフレットの作成

事業の趣旨を市民と共有するために、「名称」を『中学生の職場体験 ～地域で育つ子どもたち～』とし、ポスター等を作成した。

① ポスター

- ・職場体験期間中に店先や店内に掲示を目的に作成した。
- ・図柄は、野田市を象徴するものとして、豆バス、背景も市の象徴的な建物を配し、市花・市木を描き、未来への明るい希望とのつながりをイメージしている。

② シール

- ・受け入れを許諾している事業所の店頭にはり、市民にこの事業についての啓発を行う目的で作成した。
- ・図柄は、野田市の特産物である枝豆の芽を中心に、様々な職業の大人によって、子どもの芽を育てるというイメージである。

③ リーフレット

- ・事業の概要を説明するもので、概念図で表し作成した。
- ・産・官・学の連携および地域との連携を通した推進体制づくりが必要であることから、中心にそれぞれの関係機関との連携を示し、両サイドに事業のねらいを据えてある。



<ポスター>



<シール>

---

## 4 キャリア教育実践プロジェクト実施校の取り組み

---

### (1)活動の内容

① 事前指導の主な活動（指導に要した時間数…平均12時間）

- ・働く意義と職業の特色など勤労観，職業観形成に関する指導
- ・受け入れ事業所の開拓（教師，生徒本人，保護者）～方法・諸注意～
- ・職場体験先の希望調査，調整・決定
- ・持ち物や交通手段の確認，マナーやルールについての指導
- ・受け入れ事業所との事前打ち合わせ（教師，生徒本人）

② 職場体験中の主な活動

- ・巡回指導，出勤・退勤状況のチェック（教師）
- ・ 職場体験記録の記入（生徒本人）

③ 事後指導の主な活動（指導に要した時間数…平均8時間）

- ・受け入れ事業所へのお礼の手紙の作成
- ・ 体験新聞（報告書），体験のまとめ（冊子）の作成
- ・アンケート調査（生徒本人，保護者，受け入れ事業所）
- ・体験発表会（学年集会，全校集会，保護者会など）の実施



## (2) 職場体験の主な受け入れ事業所（19年度）

### ① 受け入れ可能事業所数および実際に受け入れをした事業所数

- ・受け入れ可能事業所数 … 439 事業所
- ・実際に受け入れをした事業所数 … 269 事業所
- 内：連続5日間受け入れをした事業所数… 186 事業所
- 2校以上を受け入れた事業所数 … 126 事業所



<消防署での体験>

### ② 主な受け入れ事業所 < ( ) は事業所数 >

郵便局（2），消防署（4），保育所（18），幼稚園（11），小学校（11），図書館（4），公民館（1），特別支援学校（1），公共施設（8），養護老人ホーム・ケアハウス（17），病院・医院（8），動物病院・ペットショップ（13），薬局（6），工業団地・製造業（41），スポーツクラブ（9），書店（6），塾（1），ファーストフード店（14），小売店（28），ファミリーレストラン・食堂（47），スーパー（17），コンビニ（13），美容室（17），生花（4），農家・牧場（7），ガソリンスタンド（5），ホテル（2），電気店（8），風呂・温泉（3），旅行会社（1），設計事務所（1）他

## (3) 活動の成果

- ・職場体験受け入れ事業所の開拓交渉から生徒本人が行った学校では、早い段階から働くという実感、意識が高まった。
- ・地域の力を活用するという観点から、PTA広報誌等を利用するなどして、地元の事業所を中心に開拓にあたった結果、学区内の事業所で受け入れ事業所を確保することができた。
- ・長欠傾向、不登校気味の生徒の中で、職場体験に参加できた。
- ・普段は落ち着きに欠ける生徒も一所懸命に職場体験に取り組む姿が見られた。
- ・体験期間が長くなったため、仕事の内容を覚えることができ、一歩踏み込んだ内容まで体験することができ、積極的に仕事に関わるようになった。
- ・社会の厳しさや仕事の大切さを実感すると共に、職業選択の意欲づけができた。
- ・長欠傾向、不登校気味の生徒が、職場体験に参加し、その後、教室に入れるようになった。
- ・受け入れ事業所にお礼に出向いた保護者もあり、体験の成果を家庭でも感じとることができた。
- ・校長が3年生の2者面談の中で、生徒に将来の夢や進路選択の理由をたずねると、職場体験をした事業所で働きたいとする回答や今後の進路選択と結びついている生徒が多い。

（3年男子） 整備工場で体験。興味を持ち、機械科のある高校を進路選択。

（3年女子） 花ファンタジアで体験。落ち葉はきや土作り等大変な仕事であるが、自然とふれ合える仕事につきたい。園芸科のある高校に進みたい。

(3年女子) 保育園で体験。先生方の気配りや仕事の喜びを知り、将来保育士か福祉関係の仕事に就きたい。福祉が学べる高校や大学に進みたい。

(不登校生徒) 動物が好きで牧場で体験。将来トリマーや動物と接する仕事をしていきたい。

- ・18年度より市内中学校に配置した地域教育コーディネーターが市内事業所開拓や事業所との調整をおこなった。さらには地域教育コーディネーターがPTAに働きかけ、保護者自らが校区の事業所開拓を進めてくれた。また、職場体験発表会に地元企業のキッコーマン副会長の生き方に関する講話を聞く機会を設定し地域の教育力を生かす取り組みを進めることができた。

#### (4)課題

- ・5日間連続で体験できる事業所には限りがあり、複数の事業所で体験をせざるを得ない生徒がいた。(1つの事業所で実施した方がより中身の濃い体験になると思われる。)
- ・多人数での体験より少人数(できれば1人)の体験が、体験後の生徒の変容に良い結果が出ており、体験事業所の調整を図る必要がある。
- ・参加意欲や意識の低い生徒への指導のあり方について検討する必要がある。
- ・各校の実施時期が重なったため、事業所から受け入れを断られるケースがあった。

#### (5)事業所から寄せられた意見

- ・受け入れ希望校が3校重なり、受け入れのやりくりが困難だった。(受け入れたいが、体制ができなかった)実施時期が重なる場合は、調整をして欲しかった。
- ・職場体験を実施する前に、注意事項や体験内容について事前の打ち合わせが必要である。

---

## 5 終わりに

平成17年度よりスタートした野田市のキャリア教育実践プロジェクトは、「地域の子どもは地域で育てる」の基本理念のもと、商工会議所・職業安定所・ライオンズクラブ・ロータリークラブ等、多くの関係団体、さらには市長部局の全面的な支援を受け、年々目的に沿って実施することが出来ている。

職場体験を計画実施したある校長は、「長期の体験になり、全校体制で職場訪問に取り組んだ。全職員が学区内の企業を知ると同時に、企業の学校教育に寄せる熱き思いを職員が感じたことが一番の成果」「今度は、学校が企業に・地域にお返しせねば」と、教師の意識改革の面も大きいと述べる。

連続5日間の職場体験学習が地域に定着しつつあり、中学校と地域社会との垣根がこれまで以上に低くなっている。「地域の子どもは地域で育てる」「地域の子どもは地域に生きる」、そんな地域社会が実現することを野田市は目指している。

平成20年度も「キャリア教育実践プロジェクト」及び小学校「ゆめ・仕事ぴったり体験」をキャリア・デザインによる街づくりの中に位置づけ、市独自で予算措置をし、次年度実施に向けて準備を進めている。

富里市では、平成18年度より文部科学省のキャリア・スタート・ウィークの指定を受け、連続5日間以上の職場体験学習を実施している。キャリア・スタート・ウィークは直接的なキャリア教育の核となるものであり、本事業(本市における通称：わくわく Working!)を通して、生徒の望ましい職業観・勤労観の育成を図ることを目標に実施している。

### 1. 富里市のキャリア教育の現状

富里市には3つの中学校があり、1～3年の生徒合計は1,400人程度である。職場体験学習については、文部科学省指定前は1～2日という期間で実施しており、学校ごとでの進路学習の計画で進めていた実態がある。各中学校においては、職場体験学習の期間を大幅に増やすことに関心はあったが、授業時数が減ってしまうことや、受け入れ事業所を開拓するための時間を作り出すことができないことなどから、本事業のようなダイナミックな取組に着手できない状況であった。

そこで、指定を受けた後、中学校で行う部分と、教育委員会で行う部分を明確にして実施した。その結果、学校の事業所開拓に係る多忙化を防ぎながら、効果的な長期の職場体験学習が実施できるようになってきた。

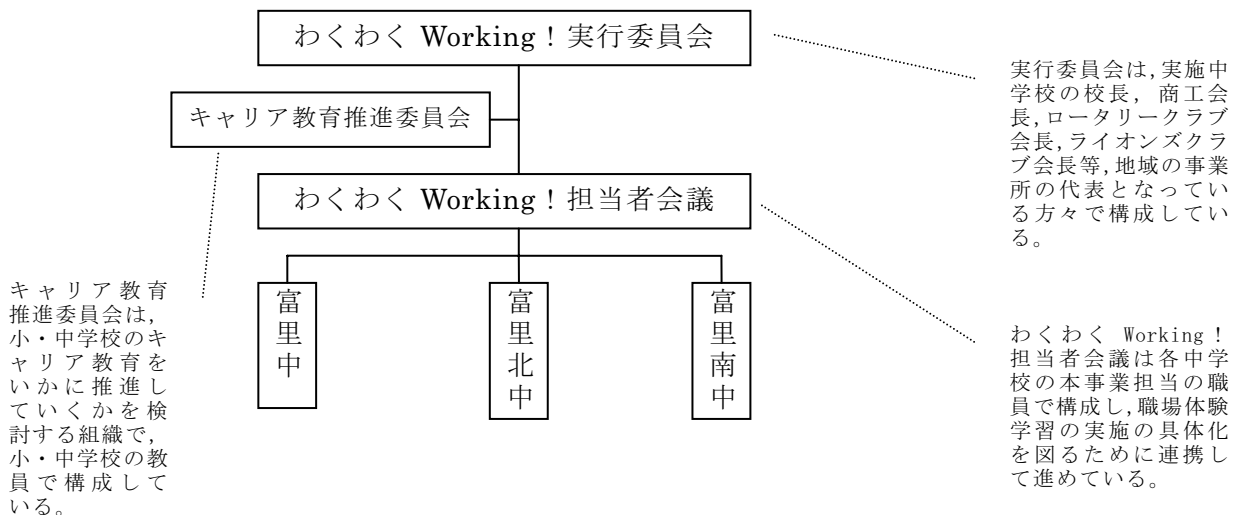
### 2. わくわく Working! (職場体験学習) の目標

富里市教育委員会から各中学校に実施における配慮事項を周知するとともに有意義な取組になるよう指導・助言している。本事業の目標については以下のとおりである。

- ・ 学ぶこと、働くことの意義を理解し、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。
- ・ 職業生活、社会生活に必要な知識、技術、技能の習得への理解や関心の深化を図る。
- ・ 社会の構成員として共に生きる心を養い、社会奉仕の精神を養う。

### 3. わくわく Working! 実施上の組織

わくわく Working! は教育委員会が事務局として、中学校に指導・助言・支援を行うとともに、地域事業所をつなぐ役割を果たしていく。実施の組織は以下のように編成した。



#### 4 わくわく Working! の目指すもの

キャリア教育において、外部の人材や地域との連携は切り離すことのできない要因である。また、5日間という長期間を学習としてとらえ、事業所に任せてしまうだけでなく有意義な体験にすることを考えている。このようなことから、以下の点を重点として進めている。

- (1) 実行委員会を開催し、実施の計画や結果を説明するとともに、実行委員の所属する団体の理事会（例会）等にも参加し、継続的に意義や目的、目指すものなどを熱く語り、理解と協力を図り、地域に根ざした事業にしていく。
- (2) 受入事業所を招き説明会を開催し、本事業のねらいを十分理解してもらい体験当日の学習効果を高めていく。
- (3) 地域に子どもを見守り育てる力を育成するために、中学校区ごとの受入事業所の開拓をしていく。

##### 【協力いただいた主な受入事業所の職種】

約100の事業所に協力いただき、これらの事業所の中から生徒が職業体験場所を選択した。

- 教育施設（小学校・中学校・幼稚園・保育園等）
- 福祉施設（老人ホーム・知的更生施設）
- 病院
- 公共施設（市役所・教育委員会・図書館・消防署）
- ペットショップ
- 造園業
- 鮮魚店
- 建設業
- ガソリンスタンド
- 銀行
- 飲食店
- 公衆浴場
- スーパーマーケット
- 自動車整備
- 貿易業務
- パン屋
- 洋菓子店
- 航空科学博物館
- 農業
- 酪農業
- ホテル
- クリーニング店
- 印章
- 寺院
- 乗馬クラブ
- IT関連企業
- 空港関係施設
- 等

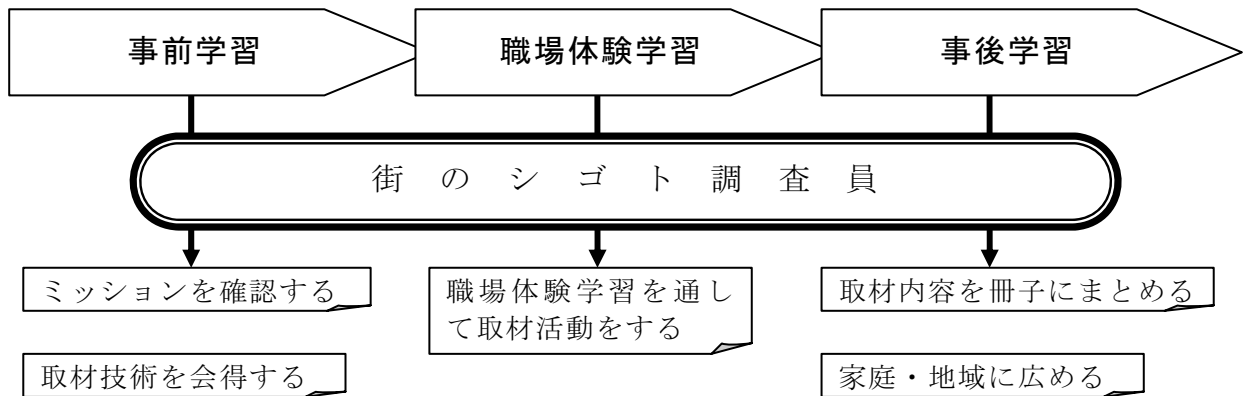
- (4) ステッカー、のぼり旗、横断幕等を作成したり、市広報やホームページを積極的に活用したりして写真展を開催する中で、広く地域に本事業の周知を図っていく。
- (5) アンケート調査等を活用し、分析をしていく中で年度ごとの評価を行い、次年度の取組に生かしていくことで事業の深化を図っていく。
- (6) 職場体験学習を核とした事前事後の学習プログラムを開発及び実践したり、教育課程全体を通したキャリア教育を推進したりすることにより、より深い職業観や勤労観が培われるようにする。

地域と学校が連携して職場体験学習を行っていくことは子どもが地域を、地域が子どもを理解する上で貴重なものである。またこのことは、実際の子どもの姿を通して地域が学校を知るわけであるから学校にとっての結果責任・説明責任を果たす上で有効であることは間違いない。そして、学校が地域に開かれていくことも促進されることになると考える。



「写真1 懸垂幕・のぼり旗」

## 5 職場体験学習を核とした事前事後学習プログラム



### (1) “街のシゴト調査員”としてのミッション

5日間の職場体験学習がさらに充実した成果が上げられるよう、平成19年度からリクルートワークス研究所（株）の協力を得て、事前事後学習プログラムを取り入れ、富里南中学校において試験的に実践することとした。

本プログラムは、生徒一人一人に“街のシゴト調査員”という仕事とミッションを与えるところから始める。ここで与えられたミッションとは職場体験学習の中で「この仕事にかける思いを聴き出す」ということである。

このように、“街のシゴト調査員”に任命することにより、次のように

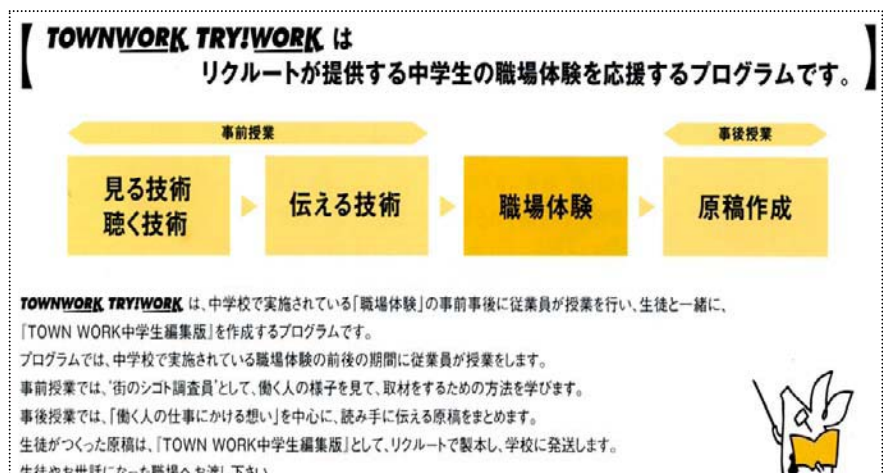
- ①一挙に2つの仕事（職場体験と“街のシゴト調査員”）を体験できる
- ②必然的に大人とのコミュニケーションを図れる訳である。

キャリア教育の中でコミュニケーション能力を培うことは重要なポイントであるが、こうした機会を与えることにより、生徒自らがコミュニケーション能力を培おうとする意識が生まれてくるのである。

### (2) 取材活動

ミッションを果たしたり、取材内容を冊子にまとめたりするには、(ア) 聴く技術（インタビュー）、(イ) 見る技術（撮影）、(ウ) 書く技術（文章構成）、(エ) 会う技術（名刺交換）を駆使して取材活動をしなければならない。

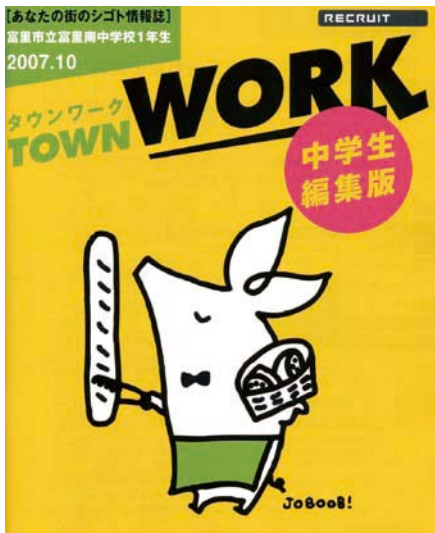
インタビューをする相手への会話の切り出し方、仕事にかける思いを聴き出すようなインタビューの仕方、仕事の思いが伝わるような写真の撮り方、聴き出したこと等を皆にわかりやすく伝える書き方等、こうしたことを事前に身に付けることができるような授業を行うことにより、自信を持って職場体験学習に臨めるようにした。



「写真2 TOWNWORK TRY!WORK プログラム説明」

### (3) TOWNWORK TRY!WORK

“街のシゴト調査員”として取材活動したことを、『TOWNWORK TRY!WORK 富里南中学校版』という冊子にまとめて、保護者や地域に富里市内で働いている方々の仕事にける思いを広めることとした。この冊子は、リクルート社（株）が出しているTOWNWORKと外見はそっくりであるが、中身は生徒一人一人が取材した内容や写真で構成されたものである。



「写真3 TOWNWORK TRY!WORK 表紙及び掲載内容」

このように、意図的・計画的に事前事後学習プログラムを取り入れた職場体験学習は、多くの生徒にとって「働いている人はそれぞれに思いを持って仕事をしていることがわかった。」「この仕事は世の中のこういうところで役立っていることがわかった。」というような気付きがあり、より深い職業観や勤労観を養うことにつながっていった。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ○受入事業所について

指定開始年度は実施の体制づくりから実施まで1年間で行うことが大変だった。特に受入事業所の開拓については「学校や行政が事業所をつぶす気か！」という内容を何度も聞かされた。

しかし、粘り強く説明を行い理解を求めていく場を設けたことで、最終的には積極的に本事業に協力しようとする事業所が大半を占めるようになってきた。それどころか子どもに教えるという行為が社会人にとっても勉強になるという声さえあった。

また、わくわくWorking!に協力いただいている各種団体からは、市民に対するわくわくWorking!周知のために、市役所に掲げる懸垂幕や受入事業所に置くのぼり旗を寄贈していただくなど物心両面から支えていただけるようにもなった。

このような学校を見守る温かい声を大切にしながら良い事業にしていきたいと考える。

#### ○生徒・保護者について

下記の『平成19年度わくわくWorking!事前・事後アンケート集計結果』では、「働く楽しさを知った。」「大人の職業に対しての誇りを感じた。」「大人の仕事に対する責任

を感じた。」「感謝する気持ちを持った。」「地域と積極的に交流したい。」「家族との会話が増えた。」「職場体験学習は有意義だった。」というように、望ましい職業観や勤労観を培うことができたことがわかる。

これも事前事後の学習を大切にされた職場体験学習を推進してきたことによるものだと考える。今後とも職場体験学習を充実させていきたい。

また、千葉県のカリカ教育推進事業「ゆめ・仕事びったり体験」(小学6年生実施)と絡めて進めていくことで発達段階に応じたカリカ教育を推進していきたい。

## H19 わくわく Working! 事前・事後アンケート集計結果

### 【働くことの楽しさについて】

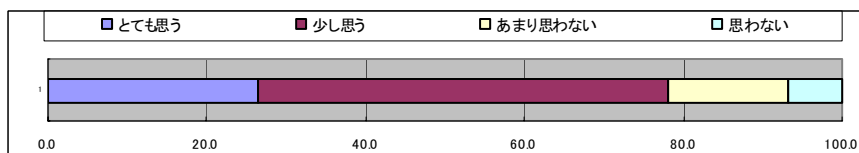
(事前) 働くことは楽しいことだと思いますか。

とても思う	26.4%
少し思う	51.7%
あまり思わない	15.1%
思わない	6.8%

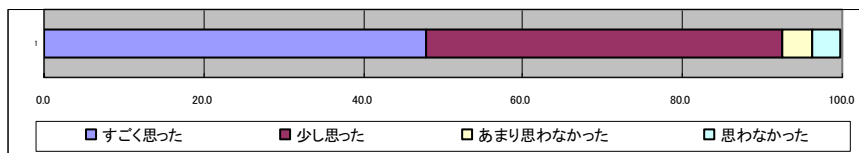
(事後) 働くことは楽しいことだと思いますか。

すごく思った	47.8%
少し思った	44.6%
あまり思わなかった	3.9%
思わなかった	3.4%

(事前)



(事後)



<考察> 働くことの楽しさを知った生徒が大きく増えた。また、働くことを楽しいことだと思わない生徒は大きく減少した。事業所での体験学習が勤労観を増大させる機能を持っていることを感じさせた。

### 【仕事への誇りについて】

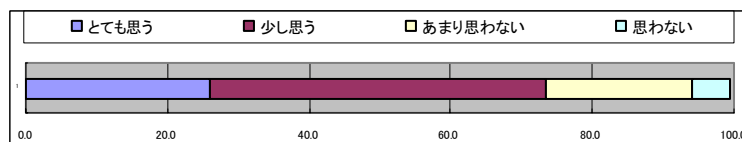
(事前) 大人は自分の仕事に誇りを持っていると思いますか。

とても思う	25.8%
少し思う	47.5%
あまり思わない	20.6%
思わない	5.5%

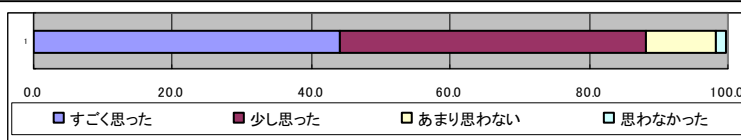
(事後) 大人は自分の仕事に誇りを持っていると思いましたか。

すごく思った	44.1%
少し思った	44.1%
あまり思わなかった	9.9%
思わなかった	1.6%

(事前)



(事後)



<考察> 「思う」の項目に答えた人数が増加し、「思わない」の項目に答えた人数は大きく減少している。大人の職業に対しての誇りを生徒が感じた結果になったといえる。

### 【仕事への真剣さについて】

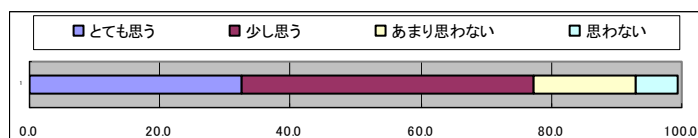
(事前) 大人はどんな時でも真剣に仕事をしていると思いますか。

とても思う	32.6%
少し思う	44.6%
あまり思わない	15.7%
思わない	6.5%

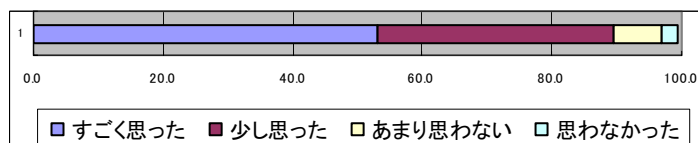
(事後) 大人はどんな時でも真剣に仕事をしていると思いましたか。

すごく思った	53.0%
少し思った	36.6%
あまり思わなかった	7.3%
思わなかった	2.6%

(事前)



(事後)



<考察> 「思う」の項目に答えた人数が増加し、「思わない」の項目に答えた人数が減少している。体験を通して、大人の仕事に対する責任を感じたためだと思われる。

### 【保護者への感謝について】

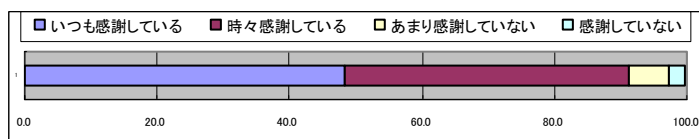
(事前) 保護者が毎日、家族のために一生懸命に働いていることに感謝していますか。

とても思う	48.3%
少し思う	43.1%
あまり思わない	6.0%
思わない	2.3%

(事後) 保護者が毎日、家族のために働いていることにあらためて感謝しようと思いましたか。

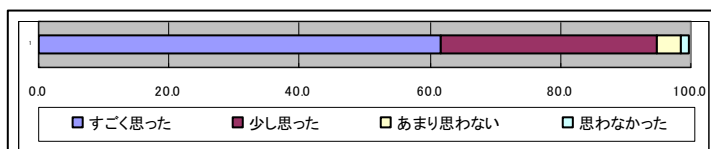
すごく思った	61.6%
少し思った	33.2%
あまり思わなかった	3.7%
思わなかった	1.3%

(事前)





(事後)



<考察> 感謝する気持ちを持った人数が増加し、そうでないものは減少している。生徒が職業体験を行ったことで、その真剣さ等を保護者に重ね合わせた結果だと考える。

**【自分の進路や将来について】**

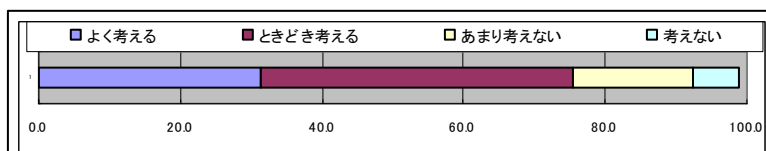
(事前) 自分の進路や将来について考えることはありますか。

(事後) 職場体験学習を終えて、自分の進路や将来のことについて考えましたか？

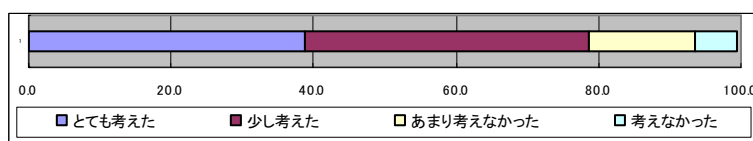
よく考える	31.3%
ときどき考える	44.1%
あまり考えない	17.0%
考えない	6.5%

とても考えた	38.9%
少し考えた	39.7%
あまり考えなかった	14.9%
考えなかった	6.0%

(事前)



(事後)



<考察> 「考えた」の人数が増加していることから職業観を養うことに本事業が有効であることを示した結果になった。今後、さらに望ましい職業観や勤労観を養っていくためには各学校において系統的なキャリア教育を推進する必要がある。

**【職場体験学習について】**

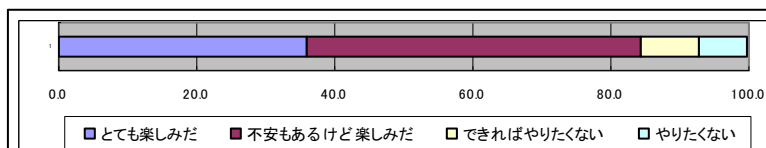
(事前) 今回の職場体験学習についてどう思いますか。

(事後) 職場体験学習はあなたにとって有意義な体験でしたか。

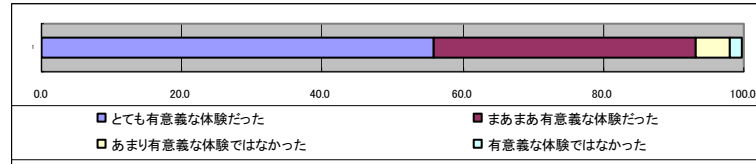
とても楽しみだ	36.0%
不安もあるけど楽しみだ	48.3%
できればやりたくない	8.4%
やりたくない	7.0%

とても有意義な体験だった。	55.9%
まあまあ有意義な体験だった。	37.3%
あまり有意義な体験ではなかった	4.7%
有意義な体験ではなかった	1.8%

(事前)



(事後)



＜考察＞ 働く大人に直接触れたことにより、有意義な体験だと感じた生徒が50パーセントを大きく上回った。また、「有意義ではなかった」項目は全体の5.5パーセントにすぎなかったことから、本事業の達成率の高さがうかがわれる。このことは、ひとえに受入事業所の方々の生徒に温かいご指導をいただいた結果であると考えられる。

## (2) 課題

校務の多忙化に伴い、研究が増えることに対して教職員が前向きに考えにくくなっていると感じる。また、キャリア・スタート・ウィークは特定の学年で行うため、実施学年以外には本事業のよさが伝わりにくいという点もある。しかし、学校が核にならない限り本事業が充実したものにならないことは当然のことであり、計画的なキャリア教育推進の必要性を教職員全体で研修していく必要性を感じている。

次に、受入事業所開拓の最終的なグランドデザインをどのようにしていくかということである。富里市としてのビジョンは子どもが自主的に事業所を開拓し、自分で体験先を見つけるところにあるが、このことは地域全体がこの事業を理解し、学校が子どもの指導を綿密に行っていくことが前提となると考える。そのため、富里市教育委員会としては今後とも各学校と連携をしながら進めていきたい。

これらの事柄を勘案しながら、以下にあるように平成20年度のわくわくWorking!の構想を立てた。この構想のもと、市総がかりでのキャリア教育を一層推進していきたいと考える。



「図1 平成20年度わくわくWorking!の構想について」

協力企業：株式会社リクルート